

学 会 報 告

日本経済学会2002年度春季大会

林 岳

2002年6月15日、小樽市小樽商科大学において、日本経済学会2002年度春季大会が開催された。日本経済学会は春と秋の年二回年次大会を開催しているが、春季大会は主に個別報告が中心の構成となっており、期間も秋季大会より短い1日のみである。

筆者は数年前から本学会に所属していたが、初めて参加した年次大会では、世界を代表する著名な経済学者が一堂に会し、非常にレベルの高い議論が数多く展開されていることに大変感動した。以来、この学会には毎年春・秋どちらかの年次大会には必ず参加している。今回の大会は筆者が当研究所の연구원として初めて参加する学会であり、今までとは違った意気込みを持って参加した。

大会は個別報告のセッションが午前と午後に分けて20ほどのテーマを設定して組まれており、その間に特別報告の部として4本の報告が用意されていた。

午前中の個別報告で、筆者は主に環境をテーマとするセッションを聴講した。このセッションでは、デポジット・リファンド制についての報告や、貿易と汚染の関係をモデルを用いて分析した結果が報告されていた。また実証分析では、二酸化炭素排出権の国内における市場取引実験を行った結果の報告などがあった。いずれも非常に緻密な分析の上に導かれた研究結果を報告するものであり、加えてこれら報告に対する討論者のコメントも的確な視点からの鋭い指摘が多く、時間の過ぎるのも忘れるほどの活発な議論が行われていた。

特別報告では、以下の4報告が同時進行で行われた。

- ・ Cooperative Extensions of the Non-cooperative Game
(市石達郎：オハイオ州立大学)
- ・ 開発のミクロ計量経済学分析：研究展望
(黒崎卓：一橋大学)
- ・ 景気循環の時系列分析—最近の展望—
(新谷元嗣：ヴァンダービルト大学)
- ・ The Macroeconomic Fundamentals of Asset Pricing in Japan
(Richard Anton Braun：東京大学)

筆者はこのうちゲーム理論に関する市石報告を聴講した。この報告は報告・質疑とも英語で行われたが、報告の内容は協力ゲームの要素を非協力ゲームの理論に適用することにより拡張を行うというもので、斬新なアイデアが盛り込まれた非常に興味深い報告であった。

午後からの個別報告では、筆者が聴講生として参加した我が省の経済職員企画研修で、講師として講義をしてくださった先生のご報告を拝聴した。セッションの前には、研修の際にお世話になったことのお礼を言うことができた。本学会は日本はもちろん世界を代表する経済学分野の著名な研究者が多数集まる場である。このような場を有効に活用して、今後の研究活動に資する研究者同士のネットワークを広げることの大切さも感じた。

今回の大会では、残念ながら農業分野に関する報告は見られなかった。しかしながら、経済学分野における最新の研究動向を知り、自らの知識不足を再認識するなど、大きな刺激を受けて自身の研究意欲を高めることができ、非常に充実した一日を過ごすことができた。